The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Manyの叙述用法
Author(s)	好田, 実
Citation	大阪外大英米研究, 9, p. 125-149
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99015
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Many の叙述用法

好　田　　実

今日の英語においては、

1) Many are the afflictions of the righteous: --- *Ps* 34:19[1]

2) These were not many. --- Hearn, *Kokoro*, P.171

の例にみられるような数量形容詞 many の叙述用法 (predicative use) はまれである、あるいは存在しないと説くものがあり[2]、*OED* はこの用法をarchaic と断じている。[3] また次例 3)のように単数形の主語・動詞[4]と共に用いる叙述用法もあるが、*OED*は、この場合必ず倒置構文をとり、今では方言であると言う。

3) Many's the time I've seen him do so.

『研究社大英和』、『三省堂カレッジクラウン』、『新英文法辞典』などは many の叙述用法は単数倒置構文に限ると述べているが、多分 *OED* の '*predicatively*. Only with inversion....Now *dial*.' (s.v.Many A.1.e) が単数構文について述べたものであって many に関する一般的記述でないことを見誤ったことから来ているのであろう。Evans(CAU) は、「形容詞 many は are または were によってそれが関わる名詞から離され例えばmany are the hearts that are weary tonight のように用いることがあり、時には単数名詞と共にこのように用いて、例えば many is the time I have said とか many is the man who has thoughtのように言う。この構文は今日アメリカでは旧式と考えられており、イギリスでは標準英語として容認されていない」(The adjective *many* may be separated from its noun by *are* or *were*, as in *many are*.... It is sometimes used in this way with a singular noun, as in *many is*. ... This construction is now considered old fashioned in the United States and not accepted

in Great Britain.) (pp.290f) と解説しているが、複数の主語と用いて倒置が義務的かどうかについては明言していないのであいまいである。('in this way'は many are...のあとに来ているから倒置による叙述構文と読むのが素直であろうが)。そして'this construction' は多分単数倒置叙述構文のみを指していると思うが、複数の場合を含めているともとれないことはない。2)のような非倒置構文は除かれ(あるいは看過され)たため、そして many are the hearts... が懐かしの歌謡であるため、その辺があいまいに思えて来るのである。

ごく新しいところで Quirk et al.(*GCE*)は *many* and *few* can be used predicatively: his few friends ~ his friends who are few (in number)(p.144)と述べているが、これだけでは多くを知ることが出来ない。Barbara H.Partee,[5] George Lakoff[6]などは many, few, several および基数詞(いずれも名詞句の中で定冠詞に続きうる数量詞つまりPost-Determiner Quantifier)の叙述方法—the arguments are many/ the arguments are five/ the arguments are few —はarchaicと見做している。

筆者は過去数年間に集めた用例の吟味を通じて、*OED*その他の archaicという判定に疑問を懐くようになった。少くともそう簡単に片付けられるものでないと思っている。結論的なことを言えば、同じく many の叙述用法と言っても一様ではなくarchaic な場合もあれば、今日も普通に用いうる型のもの—むしろ今日的なもの—もあるということである。これを実証するためには用例が一つでも多いほど良いし、古い英語ではどうであったかを知ることも助けになるので、Chaucer, Shakespeare, The Bibleも調べてみた。特に聖書については*AV*, *RV*, *RSV*, *NEB* の他に*The Bible in Basic English*, *Today's English Version*(新約)、それに年代は少し古いが日常英語への自由な訳として人気を博した*Weymouth* の*The New Testament in Modern Speech*(1902)をも加えて比較検討したが、未整理の部分があり紙面も許さないので詳細な報告は別の機会に譲り、当面必要な資料だけを示すにとどめる。

さて、議論の展開に便利なように、まず類型的な用例を若干列挙しよう。

4) Many are the afflictions of the righteous.---(1)

5) My name is Legion: for we are many.---*M'r* 5:9 /

6) Many's the petal I've peeled but lilac is lilac ...
---Capote, *Other Voices*, p.148

7) Her sins, which are many, are forgiven. *Lu* 7:47

8) The people with thee are too many for me to give...
--- *J'g* 7:2

9) See how many and great are the forces which work for his destruction.--- Richards, *Republic*, p.103

10) Our domestic dogs are so many and so interesting that they have a chapter by themselves--- *Book of Knowledge*, p.1305

11) His virtues were many, his faults few.--- *UED*

12) The ties between the countries of Southeast Asia and Japan are many and close--- historic, geographic, economic, and cultural.

13) The achievements of the structuralists are many.---
Thomas, *TGTE*, p.13

14) The reasons for this sad state of affairs are many and varied.--- Hall, *Silent*, p.1

15) Instances of cats that open doors are many --- *Book of Knowledge*, p.498

以上の例を見てすぐ次の点に気付く筈である。

i. so many, too many, how many などの形で出る場合もある。

ii. many and close, many and varied, many and great のように他の純粋な形容詞との結びつきが多い(9), 12), 14))。10)も同類である。

iii. 主語がdefinite に限らず、indefinite の形15)のものもある。

ⅰを含めて全体にarchaicか否かを論じ、ⅱ、ⅲも考察を要するが、6)と7)をまず片付けておこう。単数主語倒置構文は6)の1例しか手許になく、*OED*、*CAU* の言う通り多分英国では方言または標準以下、米国で旧式ということであろう。以下特記しない限り、many の叙述用法は複数主語を用いたものを指すことにする。7)のher sins, which are many は *NEB* のようにher many sins と書き換えられるがrel. pron. + be + many は今日の英語でもよく用いられる。16)、17)に見るように、関係詞節にもっと多くの情報が盛られるのが普通であるが、7)の場合でも afterthoughtとして追叙されこの形をとることもあろう。これに関連して注目すべきは、many, fewなどを述詞とする関係詞節は非制限的だという点である。[8] これらの意味機能が普通の形容詞と異なることから当然のことである。[9]

16) Let us leave this question for a moment and look at the wider implications of language learning, which are many and varied and which go far beyond the boundaries of structural linguistics. --- Christophersen, *ELT*, vol.21, p.108

17) And now against my critics (who will be many if they are well versed in the gospel that had its ultimate evangelist in Dr. Kinsey) I should like to argue the ...--- McGinley, *Province*, p.18

先に見たように関係詞節に盛られた内容を、先行詞の前につけて(attributively)表わすことも出来るが、関係詞構文を取る限り many の叙述用法の避けえぬことは自明である。16)を･･･ the many (and) varied wider implications･･･とするとwiderの影が薄くなり、前文との意味上の緊密なつながりを欠き、調子もくずれる。次例と比較されたい。

They (=modern artists) have also been doing so simply to explore the many and varied ways in which we can abstract and organize our abstractions, often, I suspect, in the way

that mathematicians invent new mathematical systems, not for any immediate practical use, but for the purpose of exploring possibilities. --- Hayakawa, *Symbol*, p.124

次はwhichの省略された珍しい例である。

18) ... and so with each of these things we then said were many ... --- Richards, *Republic*, p.114

4)～15)を見渡してみて、例えば4)，5)，7)，8)は古風で、12)，13)はそうでもないと何となく思えて来るとすれば、それは manyの叙述用法そのものよりは文全体の意味内容とか、前者が聖書の言葉であるという知識、そのための荘重な宗教的雰囲気の連想が原因であるかも知れず、英語を母国語とする人々の言語的直観を持ち合わさぬわれわれは、この点で非常に無力である。Ye, they (=those)というarchaismを含む用例を前にするときはなお更である。

19) Choose you one bullock for yourselves, and dress it first; for ye are many; ---*I Ki* 18;25

20) many are they that rise up against me. --- *Ps* 3:1

21) for they be many that fight against me, ---*Ps* 56:2

もっとも、英米人には逆に、次に示すように manyの叙述用法は *AV* では(そして *RV* でも)現在の標準的な written Englishに比べ遙かに大きな頻度で用いられており、上掲の章句が彼らの意識の中に潜在していて、それとの連想・共鳴の結果11)～15)の manyの叙述用法をarchaicと感じるという事情もあろう。そこで *AV* と現代語訳を比較検討すれば、聖書という特殊な文献に付随する問題はあるにしても、かなり客観的な判断が下せると思われる。

Strong の *Exhaustive Concordance* によれば、*AV*(旧約と新約)中に manyが569回現われる。そのすべてと若干の manyの同義語(例、multitude)について数種の翻訳間の異同を調べてみた結果、many の叙述用法は*AV*の38例に対して*RSV*では34例、*NEB*では14例[10]であった。*NEB*は原典から新たに現代英語に翻訳したもので、純粋に英語のイディオムを用い、古語や一時的な流行語は避けているといわれる。

従ってarchaicな構文も極力避けられ many の叙述用法もその例外ではなかったと言える。いくつか例を示そう。既に挙げた例5),19),20),21)は *NEB* ではそれぞれ5'), 19'), 20'), 21'), となっている。

5') 'My name is Legion', he said, 'there are so many of us.'

19') Choose one of the bulls and offer it first, for there are more of you.

20') Many rise up against me.

21') countless are those who assail me.

これに対して1)の*NEB*訳は

1') The good man's misfortunes may be many,

となっていて、叙述用法が温存されている。ここのくだりはすぐあとthe Lord delivers him out of them と続いて接続詞なしの畳み掛ける構文を採っており、簡潔で荘重な響きを与えている。Archaicの定義も一定していないようで、*OED* 自身に尋ねると、「《言語》古い時代のものであり、現在では個人あるいは一般大衆によって例えば詩歌、礼拝などの特別な目的のために用いられることがあっても、普通には用いられない語法」(s. v. Archaic b.)とあるから、この意味で今問題にしている many の叙述用法は obsolete ではなく archaic であることは間違いなかろう。*NEB* の14例のうちには次のような many + as + NP + be が4例もあるのは注目に値する。

22) Simon Peter ... dragged the net to land, full of big fish ... and yet, many as they were, the net was not torn.

Weymouthの新約がNP + be + manyおよびその倒置構文(many + be + NP)を含まないにもかかわらず、 who〔rel. pron.〕are many(*I Co* 11:17), many as they are (*I Co* 12:12)を残こしているのは、これら構文の簡潔さ便利さの故であろう。many の同義語 numerous にはattributiveとpredicative 両方の用法が認められているから、これを用いる手もあるが、多音節語の使用によって、*AV* 以来親しんできた簡潔直截で力強い表現が損わ

れ、流麗なリズムも乱されるのを恐れるのであろう。

次に人口に膾炙されているいま１つの名句について８種類の訳を比べてみよう。ここにはfewの叙述用法も含まれている。*AV*--*NEB*、Weymouth--*TEV*はそれぞれ年代順である。

23) (*Mt* 7:13-14)

AV Enter ye in at the strait gate: for wide is the gate, and broad is the way, that leadeth to destruction, and many there be which go in thereat: Because strait is the gate, and narrow is the way, which leadeth unto life, and few there be that find it.

RV ... many be they that enter in thereby.... few be they that find it.

RSV ... those who enter by it are many.... those who find it are few.

NEB ... many go that way... those who find it are few.

Weymouth ... many there are who enter by it ... few are those who find it.

Moffatt ... many enter that way....there are few who find it.

Basic ... great numbers go in by it.... only a small number make discovery of it.

TEV ... there are many who travel it.... few people find it.

一つの興味深い発見は、*NEB* とWeymouth がfewのみに叙述用法を採用していて、それがChristophersen & Sandved(1969)の'...one can say *very few men* and *very many men*, and *the men are very few*, though less certainly *the men are very many*'(p.72)という説に一致していることである。Fewの叙述用法は*AV* の１８例に対して*NEB*は１２例であったから、 manyの３８：１４に比べて保存度が高く、彼らの言説を裏付けている。

叙述用法の many は *OED* の初出が１４２５年で最新が１８４６年となっている。Chaucerには一度もなく[11]、Shakespeare には次の例が見出せる[12]。

24) I know you can do very little alone; for your helps are many, or else your actions would grow wondrous: your abilities are too infant-like for doing much alone.--- *Coriolanus* II i 38-41

以上の調査から推測する現りでは、many の叙述用法は１５世紀に始まり*AV*で多用されていたものが、*OED* の編集時（ mの項は１９０４－０８ ）には archaicと見做されるようになった。しかし*RV*（１８８１，１８８５）を通じて*RSV*（１９４６，１９５２)にはまだ可成り多く用いられ、*NEB* でも生き残っていると言えるわけで、*OED* の archaicというレッテルは今も正しい[13]。ところが筆者は先に、archaicとは言えずむしろ今日的とも言える用法もあるのではないかと述べた。以下この点を明らかにしたい。

まず指摘しておかねばならないことは、many という単語自体の使用頻度もそうだが、現在の普通の英語ー聖書以外の英語とおき換えてもよいがーにおける many の叙述用法の頻度は聖書に比べて遙かに小さいということである。これから検討する諸例は聖書の何倍もの文書から集め得たものである。にもかかわらず、なぜarchaic でないと言うのか。それに答えるには、これまでなおざりにされて来た、文脈の中での把握が必要である。前後関係を調べると、収集した用例のほとんどすべてが聖書の用例とは異種のものなのである。

25) *Bede's writings are many*.[14] They are mostly religious works, such as his voluminous commentaries on the Bible, often worked out with great elaborateness. There are also, however, works on scientific subjects and natural phenomena, lives of martyrs and saints, and his masterpiece, *The Ecclesiastical History of the English people* (*Historia Ecclesiastica Gentis Anglorum*) (731), which is still a fountainhead for historiographers

of the Middle Ages. Even though his works are important in themselves, his influence does not stop there...---Anderson, *OMEL*, p.45

26) *Chamberlain's contributions were many*, including the first translation of the Japanese *Kojiki* and the first Japanese grammar ever written by a foreigner. A professor of Japanese and philology in the Imperial University of Tokyo, he introduced Japan to the West. This introduction, fortunately, is continued in the present work, a sizable outpouring of Japanalia ...--- Publisher's Foreword to Chamberlain, *Japanese Th*.

27) *Butler's interests were many and varied*. He continued with his painting, played Handel on the piano, and even collaborated with another friend, his eventual biographer, Henry Festing-Jones, on two mock-Handelian oratorios. He traveled a good deal, especially in Greece and Italy, in search of evidence to support his theory that the author of Homer's works was a woman --- specifically Nausicäa in the *Odyssey* --- and that Odysseus' trip could be precisely charted in the neighborhod of Sicily.--- Lass, *50 British Novels*, pp.165f

以上の3例に共通して言えることは、或るものが数多く存在することを述べるだけで終らず、その多さを話題として取り上げているということである。24)のShakespeareの用例はこの種のものでないし、聖書にもこのような用い方を見出すことが出来ない。例えば19)を全節引用すると：

19) And Elyah said unto the prophets of Baal, Choose you one bullock for yourselves, and dress it first; for *ye are many* ; and call on the name of your gods, but put no fire under.

そして問題の部分は既に見たように（19′）、*NEB*ではthere are more of

youとなっている。5)も全節とそれに続く節を引用すると：

5) And he asked him, What is thy name? And he answered, saying, My name is Legion: for *we are many*. And he bethought him much that he would not send them away out of the country.

そして問題の部分は5)で見たように*NEB*ではthere are so many of usとなっている。

25)－27)は主語に人名を冠しているが、偶然であって、定冠詞がついたり、何もつかないindefiniteな形もあることは既に見た。ここで13)－15)をcontextの衣を着せて再登場させよう。

28)(13)) *The achievements of the structuralists are many*. Perhaps most important, they noted that the study of language can and should be divided into two parts: syntax and semantics.

Syntax and Semantics. Generally speaking, syntax refers to the structure of language and semantics refers to meaning. One function of the study of syntax ...

29)(14)) In many countries today Americans are cordially disliked; in others merely tolerated. *The reasons for this sad state of affairs are many and varied*, and some of them are beyond the control of anything this country might do to try to correct them. But harsh as it may seem to the ordinary citizen, filled as he is with good intentions and natural generosity, much of the foreigners' animosity has been generated by the way Americans behave.

As a country we are apt to be guilty of great ethnocentrism ...

30)(15)) No one who has observed cats can doubt their intelli-

gence.... A more striking evidence of thought is the act of a cat who, liking to sit in the kitchen window and watch the birds outside, used his paw to wipe a peep hole on the glass when the steam of the cooking misted it over.

Instances of cats that open doors are many. When the door is the old-fashioned latched type it is not hard; the cat has simply to jump up or stand on his hindlegs and press the latch down. But many a cat has evolved a plan for opening a door that has a knob ...

続いて用例を挙げる

31) Notions about how to teach languages, and in particular how to teach English to those for whom it is a foreign language, have been transformed in recent years. *The changes are many and extreme*: new ideas and theories have been developed; old ones have been modified or rejected; new techniques and teaching aids have been devised. Among the most important of these innovations has been the growing use of attitudes and techniques borrowed from descriptive linguistics.--- Strevens, *Papers*, p.57

32) *The reasons for using English language tests are many.* but they can be sub-divided into seven main categories, all of which may be applied both to individuals and to groups; the categories overlap to some extent:

(i) to measure attainment;

(ii) to measure progress;

....---*Ibid.*, p.88.

33) One point should be made quite clear about the Presidency

of the United States: It is an office of great power; it is also an office whose power must be used within the limits of a complicated constitutional and political system.... *The limits upon the Presidency are many*, and they have a way of exerting themselves even in time of desperate crisis. No significant national policy can be made effective without the approval of Congress, which retains in undiminished measure the power to pass laws and to appropriate money, as well as to investigate the activities of the President's lieutenants. No openly unconstitutional actions can escape the final censure of the Supreme Court. The opposing party, the free and active press,... all these independent centers of power can frustrate any President who attempts to overstep the boundaries of his rightful authority. Most important, no President, however admired, can now be elected for more than eight years....Finally, a President may be impeached by the House of Representatives and removed from office by a two-thirds vote of the Senate for "treason, bribery, or other high crimes and misdemeanors."
--- Rossiter, *Presidency*

次は小説からの引用である。

34) Then Baruch persuaded my delighted father to join a lodge he had just organized. It was called the "Baruch Goldfarb Benevolent, Sickness, Social and Burial Society." The dues were only ten dollars a year, and assessments, Baruch explained. *The benefits were many.*

When a member was sick, he received eight dollars a week, and a committee of lodge brothers visited him, wearing their

sashes. When he died, he was escorted by, not a mere committee, but the whole membership in sashes, and interred in a reserved plot in the lodge's cemetery. Each member was assured a fine funeral and one of these choice plots. The widow was to receive five hundred dollars made up in assessments.

The lodge would hold dances and vote Democratic at all the city elections. Best of all, the members were solemnly pledged to help each other in a business way. --- Gold, *Death*, p.26

25)以下の用例のうち、一つとして古めかしさを感じさせるものはない。そこには、またその古めかしさを利用して特殊な雰囲気を醸し出そうとする意図もうかがえない。そこにあるのは理路整然とした叙述である。思いつくままに述べられたものではなく準備されたものである。従って科学的、学術的文書に多く見出される。34)は小説からの引用であるが、自分の設立した共済組合への加入をひとに説得する場面である。加入した場合の「恩典はいろいろあるんでして」と説明を始める（あとは熟練した保険外交員の馴れた語り口を想起して貰えばよい）。いわゆる描出話法で記述されてあって、 Baruchは明らかにThe benefits are many.と言っている。このように many の叙述用法は一つの修辞的な技巧であり、話し言葉にも登場するのである。

さて、ここで日本語を引き合いに出して、関連する基礎的な問題を整理しておこう。

a) そう思っている学生が多い。

b) そう思っている学生が少ない。

c) そう思っている学生もいる（……学生がいくらかいる）。

d) そう思っている学生はいない。

a′) There are many students who think so.

a″) Many students think so.

b′) There are few students who think so.
{
b″) Few students think so.

c′) There are some students who think so.
{
c″) Some students think so.

d′) There are no students who think so.
{
d″) No students think so.

「ゼロ個の存在」をも含めて、英語では、日本語と異なり、数量と存在が一体となって表現される。これが普通である。[15] そして日本語の逐語訳に相当する表現

a‴) (The) students who think so are many.

b‴) (The) students who think so are few.

c‴) *(The) students who think so are some.

d‴) *(The) students who think so are no (none).

のうちc‴), d‴) が非文法的であるのに対してa‴), b‴) は文法的であるが普通ではない。文頭の定冠詞については、「そう思っている学生」をそうでない学生と対比させて意識にのぼらせるとtheがつくと考える。そういう 'the students who think so' の多数の存在を 'there + be +NP' の構文で表わすとすれば、

a⁗) There are many of the students who think so.

よりは、むしろa′)となる。a⁗)は「その学生たちのうちそう思っている者が多くいる」の意味に解釈されやすい。「そう思っている学生」のことに既に言及したのち、「その数が多い」ことを表わすとすれば、(Some students think so.) There are many of them. となるか、あるいはa″) である。これが普通である。ところが特にmanynessを強調する場合は、marked な形として、The students who think so are many. (「そう思っている学生は多い」) が時に使われるのである。このような事情からして、主語はdefiniteであるのが普通であり、日本語の主語につく助詞も「は」が普通である。[16] 30)に対する日本語は「ドアをあける猫の例が数々あるのです」であって、珍しい用例で

ある。他の例では、主語によって表わされるものが既に言及ずみで、意味するところは「その…は数々ありまして（…）」である。Manyness を強調する(heighten) という観点から11)His virtues were many, his faults few. も理解できる筈である。美点のmanyness と欠点のfewnessを対比するのにそれぞれを強調する形を利用するのは自然である。

So many の例は10)に出したが、更に追加しよう。

35) To sum up, our language has grown with those who have spoken it, as indeed any living language must grow. While men deal with simple things they use a little store of simple words; but when their interests widen, when they make new discoveries and seek out many inventions, their stock of words must increase. ...In these modern times, especially the last hundred years, *so many have been the inventions* and so vast the increase of man's knowledge of the things about him that hundreds of new words have had to be 'coined' or manufactured, and many old ones given a new meaning. --- Vallins, *Words*, pp.14f

36) ... the development of Biblical studies and the discovery of many manuscripts more ancient ... made it manifest that *these defects are so many and so serious* as to call for revision of the English translation.--- *Oxford Annot. Bible*, ix

いずれの場合も、many の他にもう一つ叙述形容詞 (predicative adjective) があり——9)の how manyについても同じことが言える——that-clauseや so as to-infinitiveに続いていて、それが特徴となっている。簡潔で力強い表現である。

9)は I. A. Richardsがプラトンの『共和国』を Basic English に基づく平明な英語で翻訳したものからの引用で、次の訳と比較するとよくわかるが、

太古の力強さを感じさせる。

Yet think of the many powerful factors that may cause its deterioration in these rare characters. --- Lee, *Republic*, p.252)

次も同書からの引用である。

37) *These philosophers won't be many* for these great powers don't as a rule go together with being able to keep to ordered, quiet and peaceful ways of living... (p.110)

これに対するLeeの訳は次のようになっている。

Think how few of them there are likely to be.....(p.266)

18)にRichardsによるもう一つのpredicative 'many' の用例を挙げたがcontextを示すと：

18') *Socrates*: Let us first agree on a point we have gone over before this.

Glaucon: What is that?

Socrates: The old story, how we use the words "to be" of numbers of beautiful things and good things, saying of them separately that *they are*. That's how we talk of them. And again we talk of a self-beautiful, and of the good in itself, and so with each of these things *we then said were many*: we talk of one thing, one idea, which is that through which they are what they are. (p.114)

対照のためLeeの訳を示しておく。

.....

'We distinguish between the many particular things which we call beautiful or good, and absolute beauty and goodness. Similarly with all other collections of things, we say there is

corresponding to each set a single, unique Form which we call an "absolute" reality.' (p.271)

筆者は先に Richards の訳に関して、太古の力強さを感じると言ったが、簡潔平明な英語で聖書に一脈通ずるものがあり、それは Richards 自身の狙いでもあって、実に対話体の名訳と言えよう。そしてこれらの many の叙述用法は *OED* の規定する意味でarchaic と見做せよう。

手元にある用例はほとんど検討を済ませ、残るは次の 3 例である。

38) In a language in which nasals and voiceless fricatives were rare, or not phonemically distinguished, the present performance of PAT might well be quite adequate. In a language where *nasals and voiceless fricatives were many and phonemically distinguished*, PAT would perform less well. --- Strevens, *op. cit.*, p.128

39) Similar to Withers' "natural and elegant analogy," above, but directly contrary to his logic on other plural subjects, is Bayly's comment that, *since a verb expresses one action though the agents be many*, "it may stand singular with a nominative case plural." --- Leonard, *DCEU*, p.21

40) Lord Treasurer: 'Thou art a fantastical fellow, I perceive, but why not to our churches?'

Barrow: '*The causes are many and great*, my Lord, and it were too long to show them in particular. But briefly, my Lord, I cannot come to your churches because all the wicked and profane of the land are received into the body of your churches. Again, you have a false and anti-Christian ministry set over your churches, neither worship you God aright, but after an idolatrous and superstitious manner. And your church is not

governed by the word of God but by Romish courts.' --- Hurstfield, *Elizabeth I*, p,121

38)は既に述べた一つの特徴 many + and + adjectiveの形を成している。他の例ではこの形容詞がvaried とかgreatのように単音節か2音節程度の単語であるのに比べると、異常に長い。この点について一米人に印象を尋ねると、確かに不釣合だからnumerous に変えるほうがよいとのことであった。[17] 釣合のとれたnumerous and perplexing (Paul Roberts)があるかと思えば、numerous and varied(Eugene A. nida) という例もあるから個人の好みも関係しているかも知れない(38)は31), 32)と併せて同一著者のものである)。本論文ではfewの叙述用法は取り立てて扱わないが、引用箇所の前半に ....were rare とあるのはwere few とほぼ同じ意味であることを指摘しておく。

39)の問題の部分が引用符の外にあるため、はっきりしないが、原著(Anslem Bayly, *Plain and Complete Grammar*. 1772)でも many が述詞となっておれば、内容は随分滑稽だが、古い用例として注目に値する。

40)も古い用例であり(16世紀)、その上筆者が収集したものの大部分に共通した用法と同じものである。説明に重複する部分も生ずるが、この用法とは、つまり、manyness を強調しそれを話題として語り起こす修辞的技巧である。この技巧によりきちんと整理した記述が行われるから学術的論述に適しているということはあるが、文学、法律、教会といった特定の分野に使用が限定されるものではない。この点で*OED*, *Webster*^{3}(s. v. archaic 2a) の定義するarchaismと少々趣きを異にしていると言えよう。G. Lakoff[18] はarchaismを、かっては十分に文法的であって今日でもnative speakerに理解されるものと定義し、archaicな文章が今日積極的に用いられるのは、そのような古い形式に頼る(文学、法律など)修辞的環境においてのみであると言っているのはそれなりに正しく、彼に従えばmany の叙述用法はすべて archaicということになる。しかし肝心の(われわれにとって!)どういう修辞的技巧であるかは論じていない。

Many の叙述用法は marked な形式であって、特別な目的のために修辞的に選択されるのだが、それには古さに通ずる、素朴・荘重・力強さを狙う場合—狭義のarchaism——の他にmanyness に焦点を合わせ、それを話題にする場合——広義の archaism——があり、この場合は古さを感じさせず今日（も）spoken, written の区別なく比較的よく用いられているというわけである。誤解を避けるために付言すると、manyness を強調するというのは、数の多さの度合を強めるというのではなく、many であること自体に読者（聴者）の注意を引きつけるという意味である。そしてそのことを話題として語り起こす、あるいは、そのことに殊更注意を引きつけたことの当然の成り行き上、数多く存在するものを列挙し説明するのである。従って多くの場合、パラグラフの最初の位置を占める。また、この種の用法では当然のことながら、否定形は現われない。そして、例えば28），30），32）のように、それ自体は、見るからに、主部が長く述部の短い、頭でっかちな文であっても、すぐあとにどっしりした実質上の胴体が続いていて、決して尻すぼまりになっていない。こういう巨視的な観察が語法研究にとって肝要ではなかろうか。ここにおいて、もはやわれわれは次の数詞を述詞とする珍しい表現を前にしても何ら奇異を感じない、それどころか極めて適切な表現であることを了解する筈である。

Great as are the differences between the grammar of Old English and that of Modern English, the one has been developed gradually out of the other. We propose now to inquire into the causes to which this development has been due. *The questions which have to be answered are two.* First, why has the English language got rid of nearly all the multitude of grammatical forms which it once possessed? Secondly, what new grammatical machinery has the language acquired during the last thousand years, and how was this new machinery obtained? These two questions cannot be kept entirely separate... --- Bradley,

Making, p.16

NOTES

1) 聖書の引用は特に記さない限り欽定訳からである。

2) 例えば *COD*[5]、斎藤静『双解英和』、柴田徹士『アンカー英和』、『現代英文法講座2』、Christophersen & Sandved(1969).

3) s.v. Many A. 2. d

4) Jespersen は、主語は複数形、動詞は単数形の倒置構文を用いた many の叙述用法を1例あげている(MEG, II, 2.73)。

5) "Negation, Conjunctions and Quantifiers", p.157

6) "Repartee," p.396, p.398

7) Basic English 850語には *many*, *few* は含まれていない。しかし文体その他参考になる面も多いと考える。

8) Cf. Carden, "On Post-Determinate Quantifiers," p.425

9) つまり、これらはpredicativeに用いてもattributiveに用いても Bolinger(1967)の言う referent-modification だからである。

10) 脚註に示された別訳からも拾ってある。

11) Tatlock & Kennedy の Concordance による調査結果。

12) Bartlett の Concordance による調査結果。この用語索引はその名の如く complete であるとは到底言えないものであるから、近く最新のものを用いて調査する考えである。

13) 17～19世紀の聖書以外の文献を調べるとおもしろいと思うが今はその余裕がない。

14) これより、引用が長くなるときは many の叙述用法が含まれている部分を斜字体にする。

15) 日本語では基数詞でも名詞と離れることがよくある。例えば：「われわれには目が二つ、鼻が一つ、耳が二つある。」これに対する英語は：We have

two eyes, one nose and two ears.

16) この文章は、質問に対する答えとしてなら、主部を強く発音して「そう思っている学生が多くいる」の意味で用いうるが、いま問題にしているのは many を強く発音する場合である。

17) 因みに、彼は次のa.は natural, d. はvery natural, b., c. は possible であると答えた(いずれ何人かの英米人にmany の叙述用法に関連して多角的に質問してみる積りである)。

a. Casualties in the accident were many.

b. These were not many.

c. These philosophers won't be many.

d. His virtues were many, his faults few.

18) "Repartee," p.398

BOOKS AND ARTICLES CONSULTED

Bartlett, John. *A Complete Concordance of Shakespeare*. Macmillan, 1953.

Bolinger, Dwight. "Adjectives in English: Attribution and Predication." *Lingua* 18(1967) 1-34.

Carden, Guy. "On Post-Determiner Quantifiers." *Linguistic Inquiry* 1 (1970)415-427.

Christophersen, Paul and Sandved, Arthur O. *An Advanced English Grammar* 1969. Reprint, Macmillan, 1970.

Evans, Bergen and Evans, Cornelia. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. Random House, 1957.

Jespersen, Otto. *A Modern English Grammar*, pt.2. George Allen and Unwin, 1928.

小稲義男　「冠詞・形容詞・副詞」『現代英文法講座』第２編。研究社。
１９６７．

Lakoff, George. "Repartee, or A Reply to Negation, Conjunction, and Quantifiers." *Foundations of Language* 6(1970) 389-422.

小川佐太郎　「形容詞」『英文法シリーズ』第８編。研究社。１９５４.

大塚高信編　『新英文法辞典』１９５９．改訂増補版。三省堂。１９７０．

Partee, Barbare Hall. "Negation, Conjunction, and Quantifiers." *Foundations of Language* 6(1970) 153-165.

Quirk, Randolf; Greenbaum, Sidney; Leech, Geoffrey; and Svartvik, Jan. *A Grammar of Contemporary English*. Longman, 1972.

Strong, James. *The Exhaustive Concordance of the Bible*. Abingdon Press, 1890.

Tatlock, John S. P. and Kennedy, Arthur G. *A Concordance to the Complete Works of Geoffrey Chaucer and to the Romaunt of the Rose*. 1972. Reprint, Senjo Publishing Co., 1963.

BOOKS QUOTED FROM

1 The Bible

(*AV*) *The Holy Bible*. American Bible Society.

(*RV*) *The Old Testament in the Revised Version*. 4 vols. The World Classics, vols. 385-388. Oxford Univ. Press, 1931.

The New Testament in English and Japanese. Japan Bible Society.

(*RSV*) *The Oxford Annotated Bible. Revised Standard Version*. Oxford Univ. Press, 1962.

The Bible in Basic English. 1949. Cambridge Univ. Press, 1965.

Moffatt, James. *The New Testament. A New Translation*. London: Hodder and Stoughton, 1935.

(*NEB*) *The New English Bible. The Old Testament*. Oxford Univ. Press, Cambridge Univ. Press, 1970.

The New English Bible. The New Testament. 1961. 2nd ed. Oxford Univ. Press, Cambridge Univ. Press, 1970.

(*TEV*) *Good News for Modern Man. The New Testament in Today's English Version*. 1966. 2nd. ed. American Bible Society.

Weymouth, Richard Francis. The New Testament in Modern Speech. 1902. Pocket ed. partly rev. London: James Clark and Co., 1916.

2 Others

Anderson, G.K. *Old and Middle English Literature from the Beginnings to* 1485. Collier Books, 1962.

The Book of Knowledge: The Children's Encyclopedia. Vols. 1-3. Grolier, 1964.

Bradley, Henry. *The Making of English*. 1904. Macmillan,

1951.

Capote, Truman. *Other Voices, Other Rooms*. 1948. Penguin Books, 1964.

Chamberlain, Basil Hall. *Japanese Things*. 1904. Charles E. Tuttle, 1971.

Christophersen, Paul. "Is Structuralism Enough?" *English Language Teaching* 21:106-114.

Gold, Michael. *Death of a Negro*. Tokyo: Aoyama, 1971.

Hall, Edward T. *The Silent Language*. Tokyo: Nan'undo, 1969.

Hayakawa, S. I. *Symbol, Status, and Personality*. Harcourt, Brace and World, 1963.

Hearn, Lafcadio. *Kokoro*. Popular ed. London: Gay and Hancock, 1922.

Hurstfield, Joel. *Elizabeth I and the Unity of England*. 1960. Pelican Books. Penguin Books, 1971.

Lass, Abraham H., ed. *A Student's Guide to 50 British Novels*. Wash. Square Press, 1966.

Lee, H.D.P., trans. *Plato The Republic*. 1955. Penguin Books, 1972.

Leonard, Sterling Andrus. *The Doctrine of Correctness in English Usage* 1700-1800. 1929. Russel and Russel, 1962.

McGinley, Phyllis. *The Province of the Heart*. Tokyo: Seibido, 1971.

Richards I. A. trans. *The Republic of Plato*. Tokyo: Kenkyusha, 1952.

Rossiter, Clinton. "The *Presidency*" in *American Politics*

and Government edited by Stephen K. Bailey, 47-58. USIA, 1965.

Shakespeare, William. *Coriolanus*. In *The Complete Works of Shakespeare* edited by W.J. Craig, 701-737. Oxford Univ. Press, 1965.

Strevens, Peter. *Papers in Language and Language Teaching* Oxford Univ. Press, 1965.

Thomas, Owen. *Transformational Grammar and the Teacher of English*.

Vallins, G. H. *Words in the Making*. 1935. Tokyo: Seibido, 1963.